

令和元年度 丹波篠山市立西紀中学校 学校評価

〔教育目標〕 基礎力・思考力・実践力をもち、磨き合って共に自立に向かう生徒の育成～元気な生徒・元気な先生・元気な学校
 〔めざす生徒像〕 主体的な学びと対話を通して、深く考え実践する生徒
 〔めざす学校像〕 安全安心を基盤に、生徒が生活・学習を創造するコミュニティ・スクール

次年度改善の柱〔3カ年計画〕

- (1)基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善への取り組み
 (学力向上・自己教育力・授業改善・外国籍生徒への指導)
- (2)実態に応じた特色ある学校経営・学年経営・教育活動の見直し
 (学校行事・学年行事・学年経営・部活動・コミュニティスクール・業務改善)
- (3)更に充実した生徒指導体制・小中連携への取り組み
 (ヨコ連携の強化 不登校対策 情報モラル 小中連携)
- (4)未来に挑戦し自己実現を目指すキャリア教育への取り組み
 (キャリア教育 進路指導 体験的学習)

A:よく達成出来た B:達成出来た C:やや課題あり D:改善を要する ○:成果 ▲:次年度への課題 □:学校関係者評価

重点Ⅰ 危機管理意識を高め、自らの命を守り抜く安全・防災教育		評価
1	西紀中学生3つの宝(挨拶・傾聴・全力)を基盤に、きびきびした生活、すがすがしい環境、さわやかな仲間による安全安心で規律ある教育環境を確立する。	A
2	安全点検の徹底や体育授業等におけるきめ細かい生徒観察により事故の未然防止を図るとともに、定期的な緊急連絡体制の確立により、事故に即時応ずる。	A
3	食・睡眠・交通をはじめ、情報進展に伴う事件・事故、防災や国民保護等、健康・安全に係る情報を的確に判断し、主体的に行動する能力を育成する。	B
4	家庭や地域、関係機関・団体と連携した防災防犯体制を確立するとともに、危険箇所の把握や自転車保険への加入等、安全に対する意識の高揚を図る。	A
○	定期的な安全点検により、小さなことにも目が届き、事務職員とも連携をとりながら、管理・修繕等が出来ている。	
▲	情報モラルに対する取り組みは、生徒指導・技術科・人権教育が協力してカリキュラムを作る必要がある。保護者への更なる啓発・指導も今後の課題である。	
□	平素より、訓練・学習等に取り組んでおり、安全面における細やかな配慮もあり、高い危機意識を感じる。今後も、情報モラルにおける保護者への啓発や学習会、薬物乱用防止についても、取り組みを継続させてほしい。	
重点Ⅱ 誇りを感じる学校・学級集団		評価
1	学校・学級の課題について、話し合い合意形成・協力して改善することを通し、現在及び将来を見据えた課題解決力や人間関係形成・社会参画する力を育てる。	B
2	学級の生活・学習を話し合い、PDCAサイクルで改善する中で、誇りと責任感をもち、よりよい生活や人間関係を築く自主的・実践的な態度を育てる。	B
3	生徒会・教科係が生活・学習の諸課題を解決・改善する活動を通して、協力・協働して諸課題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる。	B
4	学校行事を通して、集団への所属感・連帯感を高めたり、高い目標をもち、自己を生かし、協力して課題解決したりする自主的・実践的な態度を育てる。	A
5	効率的、効果的に部活動を行い、顧問と協議しながら自発的・自主的に心身を鍛える生徒を育成する。	B
○	全体的には、ねらい・目的を明確にした行事への取り組みや教育活動の展開が、生徒の高い意欲を引き出し、充実した日々の授業・学校行事・生徒会活動につながっている。生徒たちの責任感の醸成、高い達成感が感じられる。	
▲	今後、生徒数や教職員数が減少していく中、行事の持ち方、学年経営の在り方、部活動の運営や精選、生徒会組織の見直し等、早急に検討が必要である。	
□	学校行事での生徒たちの取り組み、表情、達成感には目を見張るものがある。長期的な展望の中で、部活動の精選、部活動の適正な運営に向けた方針の作成に取り組んでいただきたい。	
重点Ⅲ 未来を見据えて個性・能力の伸長を図るキャリア教育		評価
1	教育活動全体で、学ぶことと将来や社会とのつながりを考える中で、社会的・職業的自立に向けた資質・能力や社会参画する意欲・態度を育む。	B
2	生徒が生き方を考え、自らの意思と責任で自らのよさを生かす進路を選択できるよう、キャリアノートを活用し個に応じた組織的・計画的な進路指導を行う。	B
3	体験活動のねらいを明確にし、事前事後指導を充実することを通して、勤労・奉仕等を尊ぶ心や、社会の一員としての自覚、社会参画への意欲、態度を養う。	A
4	地域人材による学習や地域貢献活動により、ふるさと「西紀」を愛する心を培い、我が国や外国の文化・伝統を理解し、尊重し合う生徒の育成を図る。	B
○	地域人材の活用、各種ボランティア活動への参加は、生徒の地域貢献や心の成長の機会となっている。わくわくオーケストラ・トライやる・面接練習等の丁寧な各学年での取り組みは、大きな成果である。	
▲	3年間を見据えた、系統だったキャリア教育・進路学習の推進計画の見直しは必要である。また、保護者アンケート結果より、1・2年生における進路学習や進路情報等の発信については、内容や時期に課題が見られる。	
□	1・2年生における、進路学習や進路情報の提供は、時期的なこともあり、出来ていないということではない。キャリアノートの引き継ぎや活用については、抜本的に方策を検討し直すべきである。	
重点Ⅳ 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善		評価
1	新学習システムを活用した少人数指導や補充的な学習、発展的な学習など、個に応じ個が生きる指導内容・方法の授業改善を進める。	A
2	見通しのある予習、書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正・推敲・活用による振り返りを通し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。	B
3	生徒自らが学習を振り返り、その定着を図り新たな課題に挑戦していけるように、基礎基本の定着とその活用を意識した評価、評価言を工夫する。	B
4	知識・技能が他の学習や生活で活用できるよう、見通しを立てて予習をしたり振り返って復習したりする家庭学習や放課後学習の充実を図る。	B

5	言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や現在の諸課題に対応する資質・能力を教科横断的な視点で育成する。	B
6	読書への興味を深めるとともに、外部人材を活用も含め創意工夫して学力向上の取組を推進する。	C
○	研究課題を明確にして、教科の枠を超えて、組織的な校内研修への取り組みは出来ている。授業スタンダードに基づき、対話的活動、ICTの導入、予習への取り組み等が自然なかたちで授業の中で取り入れられている。落ち着いた授業の展開が学力向上に表れている。	
▲	学力向上・研究推進・小中連携・3カ年計画をタイアップさせ、研究課題を明確にした取り組みが必要である。生徒の家庭学習の在り方、学習方法や学習習慣の確立、基礎学力の定着、外国籍生徒への指導は、更なる取り組みが必要である。	
□	家庭学習の在り方・学習方法や学習習慣の確立・基礎学力の定着・外国籍生徒への指導の充実に向けて、時間をかけて具体的な指導が必要となってくる。朝の読書や読み聞かせについても、効果的な方策を検討して頂きたい。	

重点V 存在感や成就感を大切にした生徒指導		評価
1	生徒が存在感を実感する中で自己指導力や人間関係を高めるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら命と人権を根幹に据えた生徒指導を進める。	A
2	全教職員の共通理解のもと、ガイダンスとカウンセリングの双方から心の居場所づくりに努め、問題行動、不登校等の未然防止、早期発見・対応する。	C
3	スクールカウンセラーと連携した教育相談活動を充実するとともに、相談窓口を明確化し、早期発見・早期対応に努める。	A
4	生徒指導方針を発信し、地域と一体となった生徒指導を進めるとともに、警察、福祉、医療等の関係機関と連携し継続した組織的・計画的な個別支援を行う。	C
5	法・条例・学校基本方針や生徒会「いじめ0宣言」によりアンケートや教育相談等を通していじめを積極的に認知し、関係機関とも連携し、早期解決を図る。	B
6	情報機器の使用時間や使用目的について、生徒会活動や関係機関との連携によりコミュニケーションや個人情報、肖像権や著作権の権利を正しく理解させる。	B
○	全てが結果として表れていない部分もあるが、生徒指導委員会・ケース会議を中心とした、問題行動・不登校の未然防止、早期発見・早期対応の取り組みは評価できる。	
▲	全教職員による情報の共有化、関係機関との更なる連携強化には、ある面で課題が残る。情報機器の取り扱い(モラル)、不登校傾向や支援が必要な生徒への対応、教職員一人一人の指導力の向上は、今後の課題である。	
□	やや厳しい評価となっているが、「まだ、取り組む余地はある」ということの表れである。組織対応・早期対応はしっかりと出来ており、ケース会議も大きな成果が出ている。	

重点VI 豊かな人間性・社会性を育む特別支援教育、道徳教育、人権教育		評価
1	特別支援教育を中核に据え、ユニバーサルデザインや教育支援計画における合理的配慮を充実し、豊かな人間関係づくりと、ともに伸びる力を育成する。また、日本語指導を必要とする生徒や不登校生徒についても個別の指導計画に基づき、計画的・組織的に指導を行う。	A
2	考え議論する道徳の時間を要として体験的・実践的活動をはじめとする学校の教育活動全体で、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	B
3	人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かせるよう、全教育活動を通じて命と人権の大切さを教え、共に生きる心を育む。	B
○	人権朝会やHand in Handへの取り組みは、様々な問題や課題について考える機会となり、人権意識・人権感覚の高揚につながっている。特別支援教育や日本語指導においても、実態やニーズに応じたきめ細やかな対応や指導が出来ている。	
▲	道徳の時間の評価方法、外国籍生徒への評価の在り方は、今後、研究・検討の余地がある。同和問題への取り組み、体験型人権学習活動支援事業に対する周囲への理解・啓発は課題である。	
□	特別支援学級生徒や外国籍生徒へ細やかな配慮や支援が出来ている。人を思いやる優しい心と共に、自分の思いをしっかりと主張できる生徒の育成をはかってほしい。各種ボランティア活動への参加が、心の成長につながっている。	

重点VII 美しく活気に満ちたコミュニティ・スクール		評価
1	ホームページ、オープンスクール等により、教育活動の目標や内容を具体的に説明し、家庭・地域の参画を促進する社会に開かれた教育課程を進める。	B
2	生徒会と学校運営協議会が協議する「四つの方委員会」により、社会や将来につながり、夢・やりがい・やすらぎ(安全安心)を体感する教育を進める。	A
3	学校運営協議会の協力のもと、教育課程の評価改善や、人的物的支援などのカリキュラムマネジメントを効果的に進める。	A
4	小・中・高等学校の連携を密にし、児童生徒・教職員・地域の交流を通して、地域の学校としての育ちの連続性を確立する。	B
○	学校運営協議会の取り組みは、学校と地域との連携、学校の応援団としての役割を大いに担っている。「四つの方委員会」での協議、各種ボランティアへの参加、「にしき恋」のスクールアシスタントは、大きな成果となっている。	
▲	学校運営協議会による事業の精選・見直し、小中連携の在り方に関しては、今後、検討の余地がある。また、学校HPの細かな更新、内容等の充実、来年度に向けての課題である。	
□	「四つの方委員会」での四者の協議は、今後も継続していくべきである。各種のボランティア活動への参加が、地域貢献活動や心の成長に少しでもつながるよう、更に内容や方法を検討する。来年度は、化石発掘に関する授業やボランティアを考えて行きたい。	

重点VIII 笑顔と元気に満ちた教職員組織		評価
1	豊かな人間性の涵養に努め、専門性と実践的指導力の向上をめざし、研究と修養に努める。	B
2	心を外に開き、基礎的指導力向上を図り、保護者や地域の人々の期待に応えられる教職員組織であるよう研究と修養に努める。	B
3	法令、社会通念に基づき、非違行為は教職員全体の信用・信頼を損なうことを深く理解し、教職員としての誇りと責任をもって自己の行動を律するとともに、情報化、グローバル化など社会の変化に対応した教育観を培う。	A
4	笑顔と元気に満ちた態度で生徒と向き合うため、校務の効率的・計画的な実施、会議の効率化(会議資料の事前配布)、ノ一部活デーや定時退勤日の徹底、記録簿の整理、計画的な年休取得など勤務時間の適正化を進める。	C
○	教職員としての使命を自覚し、教職員全員が前向きに、日々の教育活動や実践的指導力の向上に取り組んでいることが、生徒や保護者との信頼関係の構築につながっている。	
▲	時間外勤務・会議時間の短縮、勤務時間の適正化に向けた、教職員一人一人の意識改革は必要である。また、あくまでも生徒と向き合う時間の確保、教材研究の時間を確保するために、業務改善には取り組んでいく。	
□	本当に頑張っているが、教職員に余裕がないと、元気な組織は作れない。教職員も、自分のためや家族のために使う時間も大切にしてほしい。業務改善は、あくまで、生徒と向き合う時間を確保するという視点から推進して欲しい。	